

ロシナンテスの哲学

ひとりは

みんなの為に

みんなは

ひとりの為に



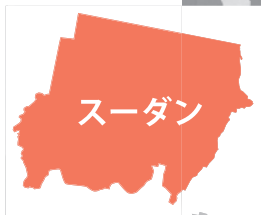
日本

ロシナンテスの活動理念

目の前の困っている人と共に歩み続けます。

家族の絆と地域の和を大事にします。

世界と日本の子どもたちの明日の笑顔のために活動します。



スーダン

ごあいさつ

ロシナンテスが誕生いたしました、9年目となりました。ここまで歩んでこられたのも、ご支援してくださる方々のおかげであります。心より御礼申し上げます。

さて、何かを立ち上げるというのは「えいやっ!」で、できることだと思いますが、今後はいかに継続そして発展させるかを考えねばなりません。これには、じっくりと腰をすえて、事にあたる必要があります。ロシナンテスの今までを創世期とするなら、これからは発展期となるように、少しギアを入れ替えて、進んで参ります。

スーダンではハルツーム近郊の村々への巡回診療を行っております。そして、その地域診療の拠点となり、スーダンで現在出来ない治療が出来る病院を作ろう!と、思い、この一年をかけて、ようやく一步を踏み出そうとしています。一年で一步!スーダンならではの事情もありますので、御考慮いただければと存じます。

東北では、震災から3年を超え、いまや日本の既存の問題にぶちあたっています。都市の一極集中、地方の疲弊を感じていますが、それをも乗り越えようと、東北の方々とともに、土と触れ合っています。この土との触れ合い、そして人との交わりを大切にこそ、日本の既存の問題に取り組む解決策の一つであろうと思っております。

ロシナンテスは、人間でいうと小学三年生くらいです。やんちゃな時期にそろそろ差し掛かってきております。しかし、全うにそして真っ直ぐに、歩んで参ります。やんちゃ坊主を育てる気持ちで、どうぞ今後とも御指導をお願い申し上げます。

川原尚行



川原尚行
ロシナンテス理事長(医師)

福岡県北九州市出身。福岡県立小倉高校、九州大学医学部卒業。高校、大学時代はラグビー部に所属し、キャプテンを務める。1998年に外務省に入省し、タンザニア、スーダンに医務官として着任。2005年1月、外務省を辞職し、「ロシナンテス」を設立。以後、北九州を拠点にスーダンと東北で活動を継続している。2013年11月には福岡県文化賞を受賞。

交流活動



P11 交流事業



P10 被災地交流



P10 関上復興だより



P9 奇子屋



P8 健康農業

東北での活動



P6 ジャパンセンター



P5 スポーツ事業



P4 病院支援事業



P3 巡回診療事業

スーダンでの活動

巡回診療事業



無医村地区に医療を

日本の約5倍の広大な国土を持つスーダンでは、都市部以外の地方の村のほとんどは社会インフラが十分に整っていません。ハルツーム州シャルガニール郡ワドアブサレ地区は、首都ハルツームから車で1〜2時間程度の距離であるにも関わらず十分な医療施設がないため、病気になることも適切な診療を受けることが出来ない状況です。そこで、ハルツーム州保健省と協力して、2013年より当地区の32村を対象に巡回診療事業を開始しました。

ロシナンテスの巡回診療チームは、メディカルアシスタント（医師ではないが軽度の診療ができる）、検査技師、助産師、栄養士、予防接種担当者、医療統計者で構成されており、『動く保健医療施設』として医療サービスを届けています。

無医村地区の人々の為に

巡回診療では、予防接種、乳幼児健診、妊産婦健診など『予防医療』を重視しています。もちろん診療も行います。現地で治療できない重篤な患者さんは、都市部の病院に搬送し病診連携を図っています。

日中は50度近くになることもある灼熱のスーダン。2週間かけて村を車で移動し続けるのは大変ですが、月に一度の巡回診療を心待ちにしている、各村の住民に医療を届けようという想いが原動力となっています。

この事業開始に合わせて、村々の医療生活実態調査を州保健省と一緒に、調査結果をもとに次年度の事業計画を立てました。住民の健康知識向上のための啓蒙活動や巡回診療チームの医療技術の向上、さらに、中央の病院への搬送体制の構築等を目標に巡回診療車で走り続けます。

主な活動

- メディカルアシスタント、検査技師を加えた巡回診療の開始
- 対象地域の医療生活調査
- 巡回診療スタッフトレーニング
- 村の住民に対する健康教育
- 蚊帳の配布

成果、まとめ、次年度へ向けてなど

巡回診療事業は、2013年6月より開始。正確な住民情報を知るため、同年12月に医療生活調査を実施しました。2014年度は、JICAの「草の根技術協力事業（草の根パートナー型）」として、スタッフと共に、活動を継続・展開したいと考えています。住民の人達の声を聴き、共に歩み続けて参ります。



巡回診療車に荷物を満載して出発



スタッフの技術向上のため、適宜指導をする



体重計は木の幹に吊るし青空健診

病院支援事業 （医療技術支援事業）



スーダンの病院での血液透析の様子 医療機器は故障が絶えない

日本の医療技術をスーダンに

スーダンの首都・ハルツームにあるイブン・シーナ病院は1983年、日本の無償資金協力（ODA）により建設されました。日本からの援助が停止した期間もありましたが、現在もスーダンの中核病院として機能しています。院内には腎不全の患者のための血液透析施設があります。ロシナンテスでは、日本の医師や臨床工学技士を招聘し、研修や指導を行ってきました。2013年度は、当病院のスーダンの医療従事者（医師2名と臨床工学技士2名）を日本に招聘し、研修を受けてもらいました。

透析機器メーカーのニプロ株式会社の研修センターでは、機器のメンテナンス方法を中心に学びました。講師の方より「世界各国の医療従事者を研修してきたが、スーダンの医師、技師はとても良く勉強している。」と非常

に高い評価を頂きました。

また、福岡県の株式会社麻生・飯塚病院では、透析医療チームから学びました。日本の透析機器はセントラル方式ですが、スーダンは個別方式です。彼らはこの研修を通してセントラル方式を導入したいと考えたようですが、費用面など課題があります。まずは基礎をしっかりとするため、機器の定期チェック、水質検査を徹底するなど、出来ることから改善に取り掛かろうとしています。

病院研修で印象に残ったのは、『医師、看護師、技師、栄養士らのチームワークの良さ』とのことでした。より良い医療を提供するためには、医療技術だけではなく、チームワークを大切に、周囲の医療人を育てていくことが大切だと帰国後の報告会で力説していました。

主な活動

- 日本での研修
スーダン人医師2名
臨床工学技士（医療機器の技術者）2名
- (1) 株式会社麻生・飯塚病院
- (2) 済生会八幡総合病院
- (3) ニプロ株式会社（研修センター）
- スーダンにて帰国後の報告会を実施

成果、まとめ、次年度へ向けてなど

日本人の臨床工学技士による医療機器管理指導をスーダンの病院で継続的に行ってきましたが、2013年度は、初めてスーダン人の医療従事者が日本で研修を受けました。日本の医療、機器管理方法などを実際に見てもらい機会となり、学んだことをスーダンの現場に持ち帰ってもらいました。2014年度は、日本から医師や臨床工学技士がスーダンで指導を行う予定です。



日本の医療現場からたくさんのことを学ぶ



株式会社麻生 飯塚病院にて研修



ニプロ株式会社に機器メンテナンスなどの研修

スポーツ事業

「夢はサッカー選手！」サッカー大会と健康診断を実施

『サッカー』で
元気に育つ子ども達

12月のある朝、首都ハルツームから車で1時間離れたサッカー場には、体より大きめのユニホームを着て、目を輝かせた子ども達が大勢集まりました。そう、今日は待ちに待ったの少年サッカー大会「ロシナンテス杯」。17チーム、340名の子どもが集まり、会場は熱気に溢れています。今回は、単なるサッカー大会ではありません。子ども達は、サッカーの試合を楽しみながら、空き時間には、自分の体の成長を知るための『身体測定と健康教育』に参加します。スーダンの子ども達は、学校で身体測定等を定期的に受けていない場合があります。多くの子ども達に、楽しく自分自身の成長を知ってもらうため、サッカー大会と健康教育を一緒に行うことを企画しました。

『サッカー大会×
健康教育』の役割

スーダンでサッカーを楽しむ子どもたちに夢を聞くと、ほとんどの子どもたちが「サッカー選手」と笑顔で答えます。子ども達の夢であるサッカー選手になるためには、「健康であること、栄養をバランス良く取ることが大事」と説明すると、子どもたちは、必要性を自然と理解します。また、サッカーの応援に来た保護者も一緒に参加してもらうことで、大会当初、健康教育は行わないのでは？という考えから、「子ども達を元気に育てよう。スポーツと健康教育は素晴らしい」と認識が変化しようです。

9月と12月に2回実施し、600名以上の子ども達が参加しました。スーダンの子どもたちが夢をかなえられる場をつくり、笑顔の輪を広げてまいります。

主な活動

少年サッカースクール運営・指導

地方での巡回サッカー指導

サッカー大会や
スポーツイベントの開催サッカー大会と合わせた身体測定と
栄養教育の取り組み

成果、まとめ、次年度へ向けてなど

スーダンで人気のスポーツ「サッカー」を通じて健康教育を行うことで、子ども達は遊びの中から楽しく健康を学びました。これが高く評価され、2014年度は日本国際協力財団の助成を受け、サッカー大会と歯科健診の取り組みを行います。

スポーツにより、健康な子どもたちの笑顔を増やしていきます。



元気いっぱいにボールを追いかける子どもたち



子どもたちの身長測定(左)、体重測定(右)を行い、自分の成長について知ってもらう

『ジャパンセンタ―
無東西(むとうざい)』

スーダンで初めてとなる和の空間

主な活動

ハルツーム大学と
ロシナンテスとで契約調印センターのデザインなどについて
話し合いセンター名称を「無東西」に決定
日本とスーダンの大工さんによる
改修工事

日本の文化と『和』を伝える場

スーダン屈指の名門校ハルツーム大学の総合図書館内に、日本とスーダンの文化の懸け橋となる施設『無東西(むとうざい)』を設立しています。同図書館内には、アメリカとイタリアがそれぞれの文化センターを開設しており、日本は3つ目となります。

日本の文化を紹介し、交流できる場所として、『和』の空間を作りたいと考え、本センターのデザイン・設計は、ロシナンテスの活動を応援してくださっている京都の杉本工務店の杉本慎治氏に依頼しました。スーダンでは初めてであろう本格的な和室を作ろうとすると、とても大がかりな工事となります。そのため、最初は大学側もかなりの戸惑いがあり、「建物の重量はどのくらいか?」「入口が低い、高くできないか」など質問が出ましたが、日本の文化や生活様

成果、まとめ、次年度へ向けてなど

日本とスーダンの大工さんの協働作業では、文化の違いによる苦労がありましたが、お互いに心が通じ、格子が出来た時は、皆で抱き合って喜びました。

来年度は、「無東西」を多くの人に利用してもらうため準備を行い、秋には、日本の文化を紹介するセレモニーを行う予定です。

『無東西』の由来

「立ち位置が変われば西も東もない」という意味があり、『それぞれの考え方や国境を越えて相互に理解し合おう』という願いを込めています。

本センターには、清水寺の森清範貫主が揮毫した掛け軸を飾り、日本の魂を吹き込みます。

『無東西』は、多くの方々とのご縁とご協力により設立に至りました。皆様にご協力いただきありがとうございます。日本とスーダン、互いにより良い国となるよう絆を深めて参ります。



杉本氏と工事の打ち合わせを行う



清水寺の森清範貫主が揮毫した掛け軸



ハルツーム大学図書館の外観(1902年建造)



主な活動

【健康農業 亘理いちご畑】
毎週月～金曜日 8:30～13:30

【健康農業 亘理いちご畑 年間行事】
健康診断・相談会(年2回)
健康講和会(年2回)
追悼行事「鎮魂と希望の祈りを灯そう」(3月)
その他、収穫祭・芋ほり・お花見等、実施

成果、まとめ、次年度へ向けてなど

「毎週、楽しみにしている」「津波ですべて流されたけど、健康農業があると、新たな人と知り合い、充実した時間を過ごせる」などの感想を皆さんから頂いています。

2014年度は、新規参加者を募集し、より多くの人に参加頂けるようにします。また、この取り組みをパイロット・スタディーとして、将来的には全国の高齢者の介護予防に活かしていこうという、夢を抱いています。



農作業のあと、みんなで昼ご飯



作業の合間に一服(休憩)



冬場のハウスで農作業／小石を拾い、種を蒔く

健康農業事業 「亘理いちご畑」

東北での活動1

太陽のもとでの農作業で健康増進

宮城県亘理町の仮設住宅に住む高齢者の方々が対象として、「こころと体のケア」を図る『健康農業 亘理いちご畑』。平均年齢76歳の仮設住宅に住むおじいちゃん、おばあちゃん達が、交代で週に1回ずつ参加し、農作業等を行っています。昨年、亘理町が仮設住宅入居者の方の健康調査を行ったところ、半数以上の人々が「震災前に比べ、体を動かす機会が少なくなった」と答えています。運動不足により、健康状態が低下することもあるので、この問題は深刻で対応が必要です。明るい太陽の下で、土に触れて農作業を行うことは、医学的に「健康維持、健康増進に効果がある」と言われています。ロシナンテスでは、参加者の方々の定期健康診断を行いながら、2012年より、健康農業に取り組んでいます。

役割があることで人は輝く

健康農業の特徴の一つとして、参加者の方々がそれぞれの得意分野を活かした役割を持っていることがあげられます。専業農家だった方は、農作物の栽培指導係り。料理上手な方は、畑で採れた野菜を調理・指導する係り。ロシナンテスのスタッフや東北を訪れるボランティアさんたちは、農作業や生きる知恵などを学んでいます。役割があり、「ありがとう」の一言で、皆さんの笑顔が増えています。

震災から4年目となる2014年度は、仮設住宅から移転されていく方がこれまで以上に増えていくことが予想されます。健康農業事業という新たなコミュニティにより、皆さんの絆が強まり、おじいちゃん、おばあちゃんの笑顔があふれる場を育てて参りたいと思います。

東北事業部

震災から三年、 新たな一歩

2011年3月14日に理事長長川原行が、東京の三軒茶屋病院の救急車を拝借し宮城県に到着しました。16日の朝、川原から電話があり、当時無職だった私はその日の夜に物資を満載したバンを走らせていました。あれから三年が経過しました。一口に三年と言っても、立場や見る角度によって長く感じたり短く感じたりします。この報告書をお読みの皆さんのこの三年間はどうお感じになったでしょうか。

- 2013年度の東北事業部は、
 - ①学習支援事業「寺子屋 開上」「寺子屋 亘理」継続支援
 - ②健康農業事業「亘理いちご畑」農作業の本格始動
 - ③被災地コミュニティ支援事業「開上(ゆりあげ)復興だより」発行サポート
 - ④被災地交流事業「東北を歩こう」被災地研修受け入れ
- を柱に活動してまいりました。

2013年度は、これまでの二年間と比べてある変化に加速度がついたような一年でした。その変化とは仮設住宅を離れ、新たに自宅を購入したり借りたりする世帯が増えていることです。

生まれ育った故郷へ帰ることが出来ない方々が多くいます。そして、そこで共に生活していた人々と離れて、新しい土地で生活再建せざるを得ない方々が多くいます。

一方、公営災害住宅(復興住宅)の完成を待ち、仮設住宅に住み続けざるを得ない方も多くいます。

この震災から三年という時点で、故郷を離れる決心をした方、故郷の地に来る復興住宅を仮設住宅で待つ方、故郷の地から離れた場所に来る復興住宅を仮設住宅で待つ方など、その立場に違いが出てきました。ここまでは盛んにメディア等で報道されました。

私が三年以上被災地の方々と共に歩んで感じることは、多くの被災地の方々はその立場が違っても、コミュニティを少なくとも三回失うということです。津波により故郷を失うことによってコミュニティを失いました。避難所から仮設住宅に移り住むときに避難所での強い絆で結ばれたコミュニティを失いました。そして最後に、仮設住宅で長期にわたり築き上げられたコミュニティを失います。

自主再建できたから、復興住宅に入居できたから「復興した」とは到底言いうことができません。むしろ、そこから新たな復興へ向けてのスタートと思えてなりません。

東北事業部長 大嶋一馬

2013年度

4月8日	健康農業亘理いちご畑 2013年度活動開始
4月16日	開上復興だより 第17号発行
5月3日	農業アミューズメント・玉浦祭 サポート
5月17日	開上復興だより 第18号発行
5月19日	健康農業亘理いちご畑 第2回健康診断・相談会 開催
6月8日	寺子屋課外授業 第5回芝生のブルーパーク 開催
7月7日	健康農業亘理いちご畑 「健康講和と初懇親会」開催
7月19日	開上復興だより 第19号発行
7月29日	寺子屋宿泊学習 夏山と青空のブルーパーク(1泊2日) 開催
8月12日	寺子屋開上課外授業 宮里美香さんスナックゴルフ教室 開催
8月30日	被災地研修 北九州市立幼稚園連盟第1ブロック様 開催
9月8日	寺子屋亘理課外授業 流しそめん大会 開催
9月13日	開上復興だより 第20号発行
9月29日	健康農業亘理いちご畑 第1回トマト収穫祭 開催
10月5日	第5回 集え!ロシナンテたちin横浜 開催
10月12日	健康農業亘理いちご畑 第2回トマト収穫祭 開催
10月19日	開上復興だより 第21号発行
10月20日	健康農業亘理いちご畑 第3回健康診断・相談会 開催
10月21日	開上復興祈願祭・秋の例祭・開上復興いも煮会 サポート
11月11日	健康農業亘理いちご畑 第3回トマト収穫祭 開催
11月25日	寺子屋亘理課外授業 スーダンってこんな国! 開催
12月14日	開上復興だより 第22号発行
12月21日	寺子屋課外授業 ラグビー観戦&東京観光ツアー(1泊2日) 開催
12月22日	健康農業亘理いちご畑 忘年会 開催
12月24日	被災地研修受入 静岡県立浜松湖東高校様
12月27日	寺子屋亘理 クリスマス会 開催
12月27日	開上復興だより 第23号発行
2014	
1月7日	被災地研修受入 福岡県立修猷館高校様
1月11日	寺子屋子ども新年会 開催
1月24日	被災地研修受入 福岡県立小倉高校様
1月31日	開上復興だより 第24号発行
2月1日	健康農業亘理いちご畑 「健康講和会」開催
3月7日	寺子屋開上・亘理 卒業式 開催
3月9日	健康農業亘理いちご畑 第2回鎮魂と希望の祈りを灯そう
3月19日	被災地研修受入 私立灘高校様

学習支援事業 「寺子屋」



「寺子屋 亘理」授業風景

居場所があること

宮城県名取市と亘理町の仮設住宅や民間借上げ住宅に住む小学生、中学生を対象とした学習支援「寺子屋」。震災の発生した2011年に開講し、3年経った現在も、多くの子どもたちが通い続けています。寺子屋は、週5回、仮設住宅集会所で開講しており、宿題や復習を中心に各自でそれぞれに取り組んでいます。

「寺子屋は、ずっと同じ場所にあつて、ずっと変わらない先生がいる」そのことが子どもたちに安心感を与え、保護者や地域の方々との信頼関係に繋がっています。

寺子屋に通う子どもたちは、「一人で宿題をするよりも、寺子屋だと勉強がはかどるし、友だちがいて楽しい」「寺子屋では愚痴をこぼせる」「人づきあいが苦手だったけど、友達が増えた」「自分に自信がついた」などと、嬉

しい声を寄せてくれました。

夢に向かって、みんなで協力し合う

中学3年生は夏休みから、それぞれの志望校合格を目指し、受験体制に入ります。2013年度も10人全員が志望校に合格しました。受験対策として、筆記試験対策はもちろん、面接対策も行いました。下級生が面接官役となり、学年を超えて協力し合っています。こうして、「寺子屋魂」は次の学年へと継承されていくのです。

机に向かうだけではないのが「寺子屋」です。名取市閑上の子どもたちと亘理町の子どもたちが屋外でのびのびと遊んだりする「寺子屋交流会」や社会人の方を講師に迎えて、仕事について話を聞いたりワークショップをする「寺子屋課外授業」も実施しました。勉強も遊びも一生懸命！元気いっぱい笑顔いっぱいの子供たちです。

主な活動

【寺子屋通常授業】
週5回17時～21時

「寺子屋 閑上」
3ヶ所の仮設住宅集会所にて
「寺子屋 亘理」
1ヶ所の仮設住宅集会所にて

【寺子屋交流会】
芝生のプレーパークin蔵王(6/8)
夏山と青空のプレーパークin蔵王(7/29-30)
寺子屋こども新年会(1/11)

【寺子屋課外授業】
外国人との交流会・アートに挑戦

成果、まとめ、次年度へ向けてなど

震災から3年経った今も、仮設住宅での暮らしは続いています。寺子屋は子どもたちにとって「大事な居場所」の一つ。今後も継続して、子どもたちと共に勉強や遊びに励み、歩み続けます。



「寺子屋 閑上」第三期寺子屋卒業式



広い芝生で思いっきり遊ぶ(蔵王にて)



初めてのアラビア語に感動する子ども

被災地コミュニティ支援事業 「閑上復興だより」

東北での活動3 心のふるさと「閑上復興だより」

「閑上復興だより」は閑上住民による閑上住民のための閑上情報満載のコミュニティ紙です。2011年10月12日に第1号を発行して以来、発行を継続し、第25号発行まで至りました。(2014年3月末時点)

編集部は、震災前まで閑上で暮らしていた30代～50代の男女15名。取材、原稿執筆、編集会議、郵送作業、配布など、「閑上復興だより」が読者の方の手に届くまでのほぼすべての作業を、このメンバーで分担しています。それぞれの仕事や家庭を持っており、その合間を縫っての慣れない作業です。で、ロシナンテスは編集部のサポートをしてくれました。

発行にかかる費用は、地元企業の広告掲載費やサポーターの方からのご寄附、助成金などでまかなっています。毎号8000部を

編集部員で発送作業



仮設住宅にお住まいの方、民間借り上げ住宅にお住まいの方をはじめ、無料で読者の方にお届けしています。

「今は閑上を離れて暮らしているのですが、閑上のがわかつて安心する」というお声を読者の方から多数いただいております。

長年暮らしていた町が失われた今、「閑上復興だより」が心の故郷なのです。

主な活動

「閑上復興だより」が届くまで
編集会議→取材→原稿執筆→
校正/編集→デザイン→印刷→
配布・郵送

10月20日は閑上日和山で
「第2回閑上復興いも煮会」を
行いました

「閑上復興だより」の一人立ち

震災から三年を迎え「閑上復興だより」も自立運営の時を迎えました。時を同じくして、東北事業部長の大嶋が事務局長に就任しました。

2014年度4月から「閑上復興だより」は住民による自立運営となり、ロシナンテスは「復興だより」から卒業することとなりました。このような時を迎えるのは嬉しくも寂しい気持ちがあります。今後も閑上住民の為に頑張りたいと思います。

被災地交流事業「東北を歩こう！」

東北での活動4 東北のいまを知る、東北と繋がる

被災地交流事業は、一人でも多くの方に「東北のいま」を自分自身の目で見てもらう機会を提供するために始めました。

①震災当時の状況や避難所生活のこと、復興の現状などを聞く「語り部コース」

②仮設住宅にお住まいの高齢者の方とお話をする「交流会コース」があります。特に、地元の方と直接話しをして頂きたいので、こちらのコースも参加者を少人数のグループに分けています。

ある高校を受け入れた「交流会コース」がきっかけで、81歳のおばあちゃんと、18歳の高校生が文通友達となりました。「語り部コース」では、参加者が語り部さんと再会するために東北を訪れるなど、縁から絆へと結びつきが強くなっています。

被災地を自分の足で歩くと、「思い出のある場所」となり、そこに住む人々と話をする事で「あの人、元気にしてるかな?」と日常で思い出すこととなります。

このように東北へ思いをはせる人が一人でも多く増えることが、復興への原動力になると信じています。

来訪者302名

北九州市幼稚園連盟第1ブロック7名
静岡県立浜松湖東高等学校40名
福岡県立修猷館高等学校(10名)
福岡県立小倉高等学校(43名)
私立灘高等学校(25名)
広島大学医学部(7名)
河合塾COSMO(8名)
その他 団体/個人(162名)

「東北を歩こう！」

ロシナンテスは今後もこの活動を通じてまいります。視察研修をお考えの方は、お気軽にお電話でお問い合わせください。団体個人は問いません。

お問い合わせ先
ロシナンテス東北事業部
(直通)090-2666-6800

「語り部コース」閑上中学校校慰霊碑の前で、震災当日のお話を聞く

亘理町の仮設住宅でお茶会



講演会を開催して、
感想文をいただきました。

私は高校1年生です。やりたいことも決まっていませんし、将来どうなりたいという夢也没有。でも今日、先生のお話をきいて、自分の出来ることを将来していきたいと思いました。大切なのは人の為になろうとする気持ちなんだと分かりました。

熱い思いが伝わってきました。「目の前の人を助けたい」「何とかしてあげたい」その気持ちが人を動かすのだと改めて感じました。

スーダンの話を聞けて視野が広がりました。日本にも何かが足りていないけれど、それを見つけて希望が持てる国になるといいなと思いました。

いま感じた大事なことを信じて行動すると道が出来て行くんだなと思います。ハチドリの一滴ですが、私もできることをやり続けます。

自分のできることから始める。私の一滴は何だろう…。考えてみようと思います。

川原さんがスーダンの子どもたちをたねて
すごいとおもいました。わたしもおいしゃさん
になりたいのでがんばります。

お話を聞かせていたって
小さな事でもいいから人のために働きたい
と思いました。
ぜひ、また来たいと思います。

あなたの学校、会社、地域で
講演会を開催しませんか？

講演会のお申込み、お問い合わせは事務局まで
お気軽にお問い合わせください。

TEL 093-922-6470 info@rocinantes.org



2013年度(平成25年度) NPO法人ロシナンテス 講演会/イベント

2013

4/1 済生会八幡病院 入職式
4/7 明陵同窓会 福岡支部総会
4/13 第113回日本外科学会定期学術集会
4/14 広島講演会
4/15 長崎市立伊良林小学校
4/15 長崎青年会議所
4/16 プロバスクラブ例会
4/17 福岡ロータリークラブ80周年記念
4/18 東京南ロータリークラブ
4/20 福岡女子大学
北九州市市民サポートセンター
4/21 ライオンズクラブ国際協会333D
5/11 看護の日のつどい
5/13 福岡県立鞍手高等学校
5/27 早稲田大学 シンポジウム
6/1 TICAD V
6/1 NPO法人群馬がんアカデミー
6/1 群馬大学第一外科同門会
6/7 近畿大学人権委員会
6/8 タカノ食品
6/10 山口県保険医協会
6/11 トヨタ自動車九州
6/12 北海道大学
6/13 帯広畜産大学

6/14 福岡工業大学付属城東高校
7/18 大阪大学 ベンチャービジネス創成
7/19 清教学園高等学校
8/17 九州大病院別府病院 第1回市民公開講座
8/18 錦陵同窓会
8/19 小倉高校
8/20 福岡青年会議所
8/23 名瀬徳洲会病院
8/25 第7回 吉岡稔真カップ(対談)
9/3 北九州市立青葉小学校
10/9 高松ロータリークラブ
10/10 兵庫県生活協同組合連合会
小倉西ロータリークラブ例会
10/12 九州大学保健学科十周年記念会
10/15 熊本大学薬学部
10/16 筑紫女学園中学・高校
龍谷総合学園学校保護者会連合会 記念講演
10/17 WFP/上智大学共催セミナー
2013年世界食糧デー記念セミナー
10/18 蜷田地域交流センター管内 人権同和研修会
10/19 第9回萩市社会福祉大会
10/20 第15回日本救急看護学会学術集会
10/20 薩摩川内市男女共同参画フォーラム
10/25 プリチストン 彦根工場
10/26 遠賀町住民福祉講演会

10/27 レスポール久山
10/29 北九州西ライオンズクラブ 50周年記念事業
10/30 福岡県立八幡南高等学校創立記念講演
10/31 長崎県立大学
11/2 久留米大学あのか祭り
11/3 国際保健医療学会(パネルディスカッション)
11/5 福岡城西ロータリークラブ
11/6 北九州市立立原小学校
11/7 あやめが丘小学校
11/8 横浜市立神大寺小学校
11/10 第110回九大二外科開講記念会
11/13 学校保健会戸畑支部講演会
11/21 吉田小学校 国際理解教育研究発表大会

2014

2/6 全国小学校社会科研究協議会
2/7 北九州市立菅生中学校
2/8 国際ソロプチミスト 福岡南
2/12 東京都立三鷹中等教育学校
2/15 大分大学 医学部学生主催
2/16 鹿児島市国際交流市民の会
2/19 北九州市高槻市民センター
2/22 崇城大学 薬学部
2/23 筑波大学 グローバル人材推進育成事業

交流事業

スーダンから日本へ

ロシナンテススーダン人スタッフが初来日



スーダンで巡回診療事業を担当している2名のスタッフが、日本で2週間にわたる研修を受けました。

沖縄で開催された国際保健学会に参加し、北九州市では日本の医療現場や学校などを視察しました。東北では、復興マラソンに参加し、健康農業も体験しました。日本の文化や風習などを知ることは、スーダン人スタッフとの相互理解を深めることに繋がると考えています。

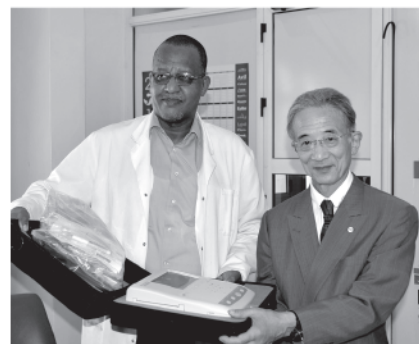
帰国後、日本での経験や発見を他のスーダン人スタッフに共有し、スーダンでの活動に活かしています。

上)東北事業部の健康農業に参加
左)沖縄で開催された国際保健医療学会にて。左から、理事長・川原/櫻井(母子保健事業担当/元・ロシナンテススタッフ)/Ms.エンティサル/Mr.フセイン

日本からスーダンへ

鈴木理事が20年ぶりにスーダンを訪問

群馬大学前学長で現ロシナンテス理事の鈴木守先生が、20年ぶりにスーダンを訪問しました。鈴木先生は、1980年代に日本政府がスーダンで行ったマラリア対策事業のリーダーを約10年務められ、その際に建てられた研究所の中には、「鈴木守研究室」が設置されています。スーダンの教授や関係者達は、鈴木先生の活躍をよく覚えており、今回の再訪を非常に喜んでいました。鈴木先生は、ハルツーム大学で、スーダンの学生たちを前に白熱の講義を行い、学生達からたくさんの質問を受けました。



ハルツーム大学医学部にて

広報活動

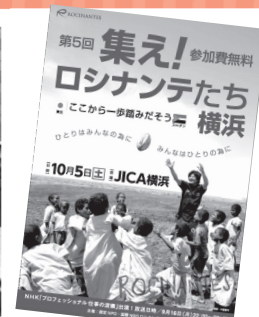
第5回 集え! ロシナンテたち!! in 横浜

最後は理事長の川原が壇上より「行くぞ!」と叫び、来場者の方の「おー!!」という掛け声で締めくくられたイベント。雨の中、300名の方々に参加していただき、JICA横浜の会場は熱気にあふれました。

『集え!』はロシナンテの輪を広げるためにこれからも全国各地で開催して参ります。

その他、支援者の方との少人数で意見交換等を行う『支援者の集い』や、理事長・川原が異業種の方と熱く語り合う『マッシュアップ対談』など、イベントも多様化してまいりました。

講演会だけではなく、このようなイベントは、ロシナンテスの活動を伝える上でとても重要なことです。多くの方のお力を借りながら、イベントの企画、運営をしていきたいと思っています。



[illegible]

竹灯籠400個
希望ともす

三 理

吉本大商店で、この
人気が沸きあつた町開
で、日、住者が種々
を講ずる竹灯籠40
の町開かりをす過
竹燈籠があつた。

竹燈籠は、町内各所
の役住宅に暮らす地
年齢の約40人が作
明かりをもち竹燈籠に
かき書きをせし奉る者

た。切て定前つた竹
の側面、燃えたいい
の書きをつり、公
に役住宅に飾れる
大型の灯籠に、
「感謝」に「毎来
い」「あそ
くにかとをもて、母
かなに包まれたアッ
シが書かれ、住民
は静かに見入る、手
をせがむ者もあつた。
浜浜地帯で遊ばし、町
内各地に飾られた、
部長さん、町は竹燈
に「もりたけ」と
中野小次郎の町内会

したため、「三星を
が年終企業金」
を込めた。この
道性軍は、役住宅
で暮らす高者の健康
づくりに取り組むN
だ。

〇年入「ロサンチス」
が年終企業金
指者を「健康」明日へ
の健康を忘れないよう
に挑戦したい」と語り
た。

つる復興委員会主催
した。
「どこに史典や資料は
行かず、中野小次郎の
原住に増殖や犠牲者名
簿を訪問、午前8時
正午まで、町民から
の住が湧れることなく
会場を訪れ、燃え熱と

[illegible][illegible]

メディア掲載一覧

掲載日
媒体名
掲載内容

雑誌・書籍

2014

2013

書籍

未来医療への挑戦者たち
笑顔のためにスーダンを駆ける痩せ馬たち

2月号

ラグマカ

自分らしく生きる
廣瀬俊朗選手（日本代表主将）と対談

3月号

月刊人材ビジネス
笹田学氏 インタビュー

テムザック
本社長、宗像青年会議所理事長井上氏と鼎談

12月号

四塚

理事長鼎談
未来を担う若者たちへ
日本人の美德とは

12月号

らしく

ドクターの話を聴こう

12月号

致知

スーダンで書き通した志

新聞

2014

2013

7月13日

上毛新聞

スータン医療支援寄付金電計届ける 群馬県内で集まった寄附により心電計をスーダンへ鈴木理事諦めない診療 九州大学院別府病院主催の講演会について

8月19日

今日新聞

白衣1着あたり100円寄付 ワーキングハセガワさんとの協働事業

8月20日

毎日新聞

白衣1着あたり100円寄付 ワーキングハセガワさんとの協働事業

8月27日

毎日新聞(福岡版)

スーダンを平和に 九州大学院別府病院主催の講演会について

8月31日

大分合同新聞

川原医師が出演プロフェッショナル出演案内 10月5日 集え横浜告知など

9月5日

新千葉新聞

福岡県文化賞受賞

9月6日

毎日新聞

福岡県文化賞受賞

9月8日

読売新聞

福岡県文化賞受賞

9月16日

西日本新聞

飯塚病院で高度医療研修 スーダン人医師ら4人が透析センターなどで研修

10月25日

西日本新聞

スーダン人医師ら4人 研修終了

11月2日

毎日新聞

パナソニック山田選手 被災地の子どもを山田章仁選手が招待

12月15日

スポーツ日刊

話の肖像画 さだまさしさん小説でつなぐアフリカと被災地 一部で紹介

12月26日

産経新聞

駆けける北九路 スーダンに巡回診療車を北九州マラソン出場、スーダンに巡回診療車を

1月9日

熊本日日新聞

信頼得て住民と共に歩む インタビュー記事(共同通信・坂元泰幸氏)

1月25日

熊本日新聞

「ひとしずく」でも続ける インタビュー記事 共同通信(坂元泰幸氏)

1月31日

信濃毎日新聞

2月8日講演会告知記事(ソロブチミスト福岡南)

2月5日

西日本新聞

復興願い『関上校』熱唱 沖縄出身歌手しおりさん 関上小学校訪問

2月26日

河北新報

NPOの学習支援 成果 寺子屋について

3月5日

読売新聞

りゅうPON 笑顔で、一歩ずつ前へ 宮城県関上の子どもたち

3月9日

新報小中学生新聞

竹灯籠に祈り 鎮魂と希望の祈りを灯そう

3月10日

読売新聞

竹灯籠400個 希望とともす 鎮魂と希望の祈りを灯そう

連載

みやざき中央新聞 (2014年1月1日より全7回)

連載

広報いしおか (元口シナンテススタッフ櫻井文 活動紹介)

ラジオ

2014

2013

3月10日

FM FUKUOKA

モーニングジャム 大嶋一馬出演

10月15日

J-wave

J K R A I D I O ~ TOKYO UNITED 大嶋一馬出演

10月4日

KBCラジオ

武内裕之 ザッツオンタイム 川原尚行出演

9月23日

KBCラジオ

武内裕之 ザッツオンタイム 川原尚行出演

7月5日

KBCラジオ

武内裕之 ザッツオンタイム 川原尚行出演

テレビ

2014

2013

2月26日

RKB

豆ごはん 北九州マラソン ランナー紹介

2月8日

TNC

スーパーニュース ソロブチミスト福岡南での講演

1月19日

RKB

ムーブ ひとしずくを集めて

1月1日

RKB

さだまさしさん なままだ

10月11日

BS11

宮崎美子のすずらん本屋堂 さだまさしさん出演 一部で紹介

9月16日

NHK

プロフェッショナル 仕事の流儀

9月19日

NHK

プロフェッショナル 仕事の流儀

8月10日

仙台放送

東日本震災特別企画「ともに」 寺子屋交流会など

7月4日

ミヤギテレビ

「希望のしるし」 寺子屋事業について

4月27日

仙台放送

東日本震災特別企画「ともに」 寺子屋閉上について

4月1日

NHK北九州

「ニュースブリッジ北九州」トークブリッジ インタビュー(10分程度)

もうひとつの スーダン

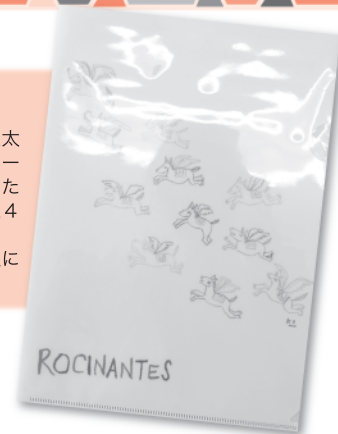


もうひとつのスーダン

プロカメラマンの内藤順司氏がスーダンで撮影した写真とエッセイが収録された写真集。ロシナンテスの活動の様子やスーダンの様子が美しい写真から伝わります。

クリアファイル

イラストレーターの黒田征太郎氏が「ロシナンテ」をイメージして描いてくださった『ロッシー君』が描かれたA4サイズのクリアファイル。勉強やお仕事の書類の整理にぜひご利用ください！



ロシナンテスグッズ紹介

講演会の会場やイベントなどでロシナンテス支援グッズを販売しています！収益はロシナンテスの活動に充てられます。

環境に配慮したものづくりを理念としているアパレルメーカー45rpmにデザイン、制作をお願いしているロシナンテスのTシャツ。オーガニックコットン100%で大変着心地が良く大好評です。数量限定で制作しています。

Tシャツ



マフラータオル

愛媛県の今治で作られるタオルはとても肌触りがよく、長く愛用することができます。首に巻いて使える長さのマフラータオルにロシナンテスのロゴをプリントしています。

2013年度 活動計算書

2013年度活動計算書に関して

皆様の温かいお気持ちを頂戴し、多くのご寄附をお寄せ頂きました。心より感謝申し上げます。ロシナンテスは、2012年1月より「寄附金控除」を受けることのできる「認定NPO法人」の認定を国税庁長官より受けました。NPO法人の数も増え、社会的影響力が高まるにつれて、その信頼性・透明性がより強く求められるようになりました。これに答えるべく、2012年4月に施行された改正NPO法で所管庁が望ましいと考える新会計基準である「収支計算書」から「活動計算書」に変更しました。活動の実態をよりわかりやすくご報告できるよう、又常に必要最小限の資金で最大限の効果を得られるよう心がけて活動しております。今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

(単位:千円)		
収入の部	① 会計・入会金収入	16,715
	② 事業収入(受託事業収入・JICAなど)	29,034
	③ 助成金収入	3,600
	④ 寄附金収入	62,764
	⑤ 雑収入(物品販売等)	18,125
	当期収入合計(A)	130,238
支出の部	海外活動費	
	① 生活改善に寄与する事業 (保健医療事業 水・衛生事業)	45,294
	② 交流推進事業 (スポーツ事業・人材交流事業)	24,160
	国内活動費	
	③ 救援・復興協力事業(東北)	35,444
	④ 広報活動	20,486
	⑤ 事務局	14,037
	当期支出合計(B)	139,421
為替差益(C)		7,595
法人税(D)		151
当期収支差額(A-B+C-D)		-1,739
前期繰越収支差額		153,276
次期繰越収支差額		151,537

特定非営利活動に係る事業会計活動計算書 2013年4月1日から2014年3月31日まで

スタッフ紹介

スーダン事業部



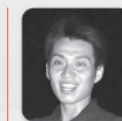
理事長 兼 スーダン事業現地代表
川原 尚行
理想は高く輝きて、
我が往く道を照らすなり



スーダン事業副代表(会計・総務・広報)
武繁 政昭
人生においては、自然の法則に
沿った行き方をしていこう



スーダン事業副代表(医師)
宇都宮 剛
継続は力なり



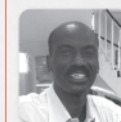
スポーツ事業担当
田中 三千太郎
一期一会



母子保健専門家
神木 英里
C'est la vie
(それも人生...)



総務・ビザ担当
アルタイプ 茜
笑って暮らすも一生、
泣いて暮らすも一生



総務マネージャー
ハルーン
膨れたたるは
大きな音をたてる



医療事業担当
フセイン スレーマン アダム
Hussain Suliman Adam Eltom
なんにも考えずにYESと
言っではいけない



医療事業担当
イマッドティーン アブダッラ モハメド
Imad Eldin Abdalla Mohamed
人生とは希望と夢である



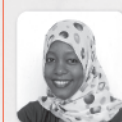
ドライバー
イスマット フンメーダ アルジャック
Ismat Humida Eljack
務めを果たさずに
明日を迎えてはいけない



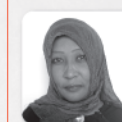
スポーツ事業コーチ
フセイン
Hussain
片手で人生をつかみ、
もう一方の手で人助けをする



総務・ビザ担当
イブティサーム イマム イブラヒム
Ebtesam Eleman Ibrahim
世界のために笑顔でいよう



会計担当
ラビア ユーニス モハメド
Rabeia Younis Mohamed
魚をもらうより、
魚をとる方法を考えよう



医療事業担当
インティサル モハメド ムーサ
Intessar Mohammed Musa
産休のためコメントなし



ハウスキーパー
イルハーム バシール アハメド
Ilham Bashir Ahmed
おしゃべりは銀、沈黙は金

東北事業部



事務局長 兼 東北事業部長
大嶋 一馬
友情は喜びを二倍にし、
悲しみを半分にする



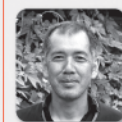
東北事業部 事務局
田地野 茜
女は愛嬌♡



寺子屋開上 塾長
工藤 博康
虚心坦懐



寺子屋垣理 塾長
綾田 早笑
克己



健康農業
「亘理いちご畑」担当
平林 由紀夫
世界に不要のものなし



健康農業
「亘理いちご畑」担当
岡部 哲
晴耕雨読



健康農業
「亘理いちご畑」担当
白井 美幸
日々新

事務局



事務局長代理
須藤 恵子
精神一到
何事か成らざらん



総務担当
宮崎 毅
Take it easy
(気楽にいこうぜ)



広報担当
山本 明子
そのうちなんて当てに
ならない。今がその時さ。



広報・講演会調整担当
山本 真衣子
Simple is the best

①役職・役割
②名前
③座右の銘

理事名一覧

会長 **桑野 信彦**
理事長 **川原 尚行**
副理事長 **新井 修一郎**
副理事長 **竹中 賢治**

理事 **東 晃一**
理事 **安西 諷**
理事 **内田 賢介**
理事 **大嶋 一馬**

理事 **岡留 健一郎**
理事 **海原 六郎**
理事 **桑野 博行**
理事 **柴田 文壽**

理事 **島田 光生**
理事 **高濱 英子**
理事 **武富 紹信**
理事 **福地 茂雄**

理事 **前原 喜彦**
理事 **松股 孝**
理事 **武藤 義博**
理事 **鈴木 守**

監事 **坂井 一郎**
監事 **矢永 啓助**

ロシナンテスの活動支援のお願い

ひとりひとりの力は小さくても、「ロシナンテ」が力を合わせて「ロシナンテス」になればきっと世界を笑顔にできる。
私たちは、そう信じて前に歩み続けます。

協力会員になる

継続的に
応援する

- 協力会員 3,000円より
- 学生会員 1,000円より
- 団体会員 30,000円より
(年1回)

寄附をする

自由な金額を設定して
ご支援頂けます。
スーダンや東北の事業に
指定して寄附を
することができます。

ご支援の方法は下記を用意しております。

郵便局

付属の払込取扱票をご利用頂くか、
下記の口座へお振込ください。

口座記号 01720-3

口座番号 74330

店名 一七九

加入者名 NPO法人ロシナンテス

クレジットカード

ロシナンテスのホームページから
お手続きください。

<http://www.rocinantes.org/support/>

毎月1,000円よりクレジットカードでご支援いただけます。

口座自動引落

所定の申込用紙を送付させて
いただきますので、事務局へ資料を
ご請求ください。

銀行口座

ロシナンテスの活動全般へ

金融機関 三菱東京UFJ銀行 北九州支店

口座番号 普通預金 No.0069309

口座名義 特定非営利活動法人 ロシナンテス

東日本大震災復興支援活動へ

金融機関 西日本シティ銀行

三萩野(ミハギノ)支店

口座番号 普通預金 No.2135060

口座名義 特定非営利活動法人 ロシナンテス

銀行口座振り込みをご利用の方で領収書をご希望の方は
下記項目を電話またはメールでお知らせください。

- (1)お振込日
- (2)お振込者名(お名前・ご住所)
- (3)お振込頂いた金額

ご寄附についてのお問い合わせはロシナンテス事務局まで

☎093-922-6470 ✉info@rocinantes.org

◆ロシナンテスは税制優遇の対象となる『認定NPO法人』です◆

ロシナンテスは、国税庁より「認定NPO法人」としての認定を受けています。(2012年1月16日)これにより、
ロシナンテスにご寄附をいただいた場合、寄付金控除等の税の優遇措置を受けることができます。
これら税制上の優遇措置を受けるには弊団体発行の領収書が必要です。

個人からのご寄附の場合

個人所得税の寄付金控除について

個人が、各年において支出した認定NPO法人に対する寄付金で、その寄付額が2,000円を越える場合には、確定申告をすることで、寄付金控除(所得控除)または寄付金特別控除(税額控除)のいずれかが選択出来ます。※詳しくは所轄税務署にお問い合わせください。

個人住民税(地方税)の

寄付金控除について

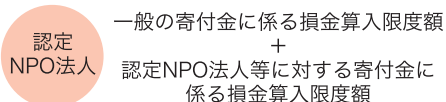
都道府県または市区町村が条例で指定した認定NGO法人等に個人が寄附した場合、個人住民税(地方税)の計算において寄付金控除が適用されます。詳細は、お住まいの市区町村または都道府県までお問い合わせください。



法人からのご寄附の場合

法人税の算定において、認定NPO法人等に対する寄付金は、特定公益増進法人に対する寄付金と同様に取り扱われ、一般の寄付金とは別枠で寄付金の額の合計額と特別損金算入限度額とのいずれか少ない金額の範囲内で損金に算入されます。

寄付者《法人》



※詳しくは、所轄税務署にお問い合わせください。

“ウェアを購入する”行動そのものが支援に直結します。



メディカルウェアジャパンでは、
1商品の売上当たり100円を、
国際NGOロシナンテスの支援金にあてています。

本サイトから商品をご購入された場合、1商品あたりの売上のうち100円が寄付となります。
また、この100円は、商品の販売価格に上乗せされておりませんので、お客様へのご負担はなく、ご自身が求める医療ユニフォームを購入いただくことが、そのまま自動的にアフリカの医療活動の支援に活かされる仕組みとなっています。

支援金の用途は多岐に渡り、様々な形で医療活動をサポートしていきます。



売上の一部を寄附してロシナンテスを応援する。

ワーキングハセガワ

業務用ユニフォームを販売する「株式会社ワーキングハセガワ」さんは、自分たちが取り扱う商品と関わりがある医療分野に支援をしたいと考え、同じ福岡県内に拠点のあるロシナンテスを支援先を選んでくださいました。同社の運営するインターネット販売サイトから白衣などを1着購入すると、100円がロシナンテスの活動資金となります。このように自社の本業の延長線上にある取り組みでご支援を頂いております。



お菓子のリーフ

お店や飲食店、病院などにロシナンテスの募金箱を設置して頂くと、ご来店頂いたお客様に応援して頂くことが出来ます。ロシナンテスの事務局近くにある「お菓子のリーフ」さんでは、長年にわたり募金箱を設置頂き、来店して頂いたお客様がお釣りをに入れてくださるそうです。また、チャリティ商品の販売の売上の一部をロシナンテスにご寄附をいただいています。

「笑顔をプロデュースするスイーツ作り」を目標に皆が笑顔になるようなお菓子を北九州市で作り続けています。たくさんの笑顔がスーダンと東北に届いています。



コラボレーション商品でロシナンテスを応援する。

湖月堂

北九州銘菓・湖月堂の「ぎおん太鼓」(パイ生地地で餡子を簡んだお菓子)とロシナンテスがコラボレーションし、オリジナルパッケージでの販売がスタートしました。ロシナンテスの講演会での販売や、北九州空港でも販売しており、お土産としても喜ばれています。このパッケージに使用している「ロッシー君」のイラストは、北九州市を拠点として活動する黒田征太郎氏(イラストレーター)によるもので、北九州市のトリプルコラボとなっています。